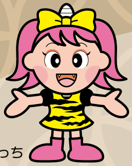
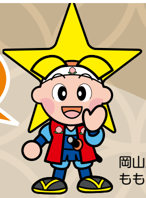
おかやまの石造物

ももっち・うらっち
と一緒に
たずねてみよう！



うらっち



岡山県マスコット
ももっち

はじめに

石造物は、みなさんが生活している場所にも多く置かれていて、比較的身近な文化財ではないでしょうか。単に目立つ場所にあるというだけでなく、お地蔵さんや題目石などは信仰の対象であり、地域の中で大切にされているものも多いと思います。

今回のガイドブックは、そのような身近な存在である石造物をテーマとしました。ひと口に石造物と言っても、その種類は様々です。今回は石塔、石仏、その他の石造物、の３つに大きく分けて、岡山県内にある石造物を紹介して、普段何気なく目にしている石造物についての理解を深めていただきたいと考えています。石造物には文字が刻まれていることも多いので、銘文（刻まれた文字や文章）を読み解いて、それらが作られた年代や作者などを調べてみることに挑戦してみてはどうでしょうか。

例えば、下の写真の鼓神社宝塔（岡山市北区上高田）は総高が約 4m あり、県内最大の石造宝塔（2 ページ参照）です。室町時代初めのいわゆる「南北朝時代」に作られたもので、刻まれた銘文から貞和２（1346）年に作られたことや、妙阿という石工が作ったことがわかります。現在、県内に８つある国の重要文化財に指定された石造物の一つです。このガイドブックでは、国または県の重要文化財に指定された石造物を紹介します。

鼓神社宝塔

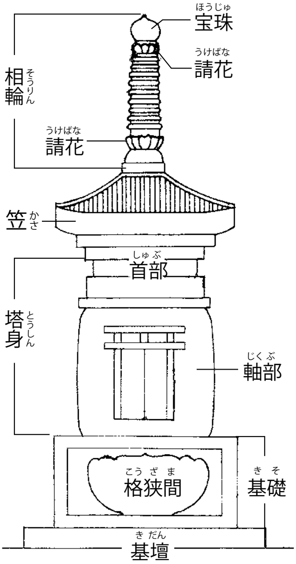
ただ、気をつけてほしいのは、文化財として指定された石造物だけが重要なわけではないということです。このガイドブックに紹介されていない身近な石造物にもそれぞれ歴史があり、地域で大切にされています。そのようなことを、あらためて認識して、地域で守り続けてほしいと思います。

〈宝塔〉

◆五流尊瀧院宝塔（倉敷市林）

国指定重要文化財

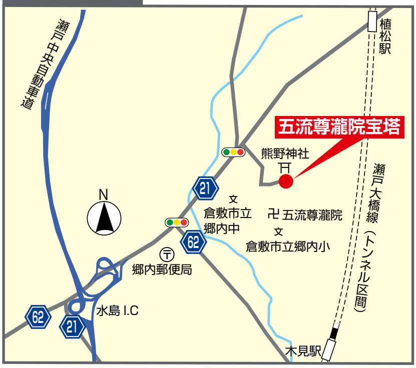
宝塔とは、法華経（仏教の経典の一つ）の中の教えに基づいて作られた石塔です。基礎の上に軸部と首部からなる塔身が置かれ、その上に笠がのり、頂上に相輪が立てられます。多宝如来と釈迦如来を彫刻するものが教えに基づく本来の形ですが、大日如来や阿弥陀如来を彫刻したものもあります。



（『岡山県の文化財（一）』より転載　以下同）

仁治元（1240）年、後鳥羽上皇の一周忌に際して建立されたと五流尊瀧院に伝えられている花崗岩製の宝塔で、熊野神社（倉敷市林）の参道のほど近くにあります。基礎、塔身、笠、相輪を合わせた総高は約375㎝あり、さらに高さ約90㎝の基壇の上に据えられています。首部に開けられた穴の中から火葬された骨や香木などが見つかっています。応仁の乱の際に受けた被害によって彫刻された仏像などはかなり傷んでいますが、鎌倉時代の特色がよく現れており、制作された年代は鎌倉時代中期を下らないと考えられます。

周辺略図



豆知識

法華経…正しくは妙法蓮華経といいます。天台宗や日蓮宗で特に重要な経典とされました。

◆沢津丸の宝塔（笠岡市真鍋島）

県指定重要文化財

この宝塔は、真鍋島（笠岡諸島）西部の沢津丸と呼ばれる場所にあり、島では「まるどうさま」とよばれています。この場所は、平氏方の武士真鍋氏の屋敷跡と伝えられています。この宝塔は、治承・寿永の乱で戦死した真鍋氏一族を弔う供養塔との伝承があります。石材は角礫質凝灰岩で、相輪上部が失われており、現在の総高は約 170㎝で、基礎は極めて低く、塔身は無地で素朴な作りです。銘文はありませんが、様式から平安時代末期から鎌倉時代初期に制作されたと考えられます。

周辺略図

豆知識

治承・寿永の乱…治承４（1180）年以仁王の挙兵から文治元（1185）年の壇の浦の戦いに至る源氏と平氏による戦い。いわゆる源平合戦。

〈宝篋印塔〉

国指定重要文化財

◆本山寺宝篋印塔（美咲町定宗）

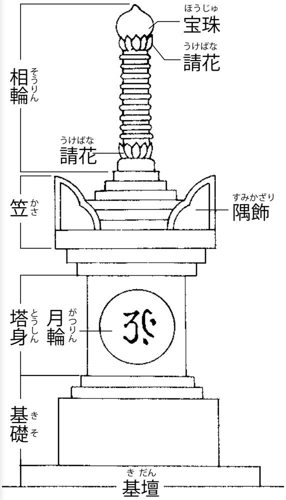
宝篋印塔とは、もとは宝篋印陀羅尼経という経典を納めるための塔で、基礎の上に塔身を置き、方形の笠をのせ、その上に相輪が立てられます。四隅に装飾突起がついた笠が特徴的な石塔です。岡山県は宝篋印塔が多く作られた場所で、特に美作地域南部に多いとされています。

銘文

大願主僧覚清（基礎正面）

建武二年乙亥六月十一日（基礎右側面）

※銘文は新字体で表記しています。（以下同）



本山寺は大宝元（701）年の創建と伝えられる寺院で、本堂、三重塔をはじめ、多数の国指定・県指定重要文化財が残されています。国指定重要文化財の三重塔のそばに立てられている宝篋印塔は、花崗岩製、総高184㎝で、塔身正面には阿弥陀如来、他の三面には梵字が彫られています。基礎の右側面の銘文から建武2（1335）年に作られたことがわかり、室町時代初期の宝篋印塔の名品として高く評価されています。本山寺には、この宝篋印塔のほか、応永6（1399）年に作られた宝篋印塔、康永3（1344）年に作られた六角型舎利塔（仏舎利を納めるための石塔）もあり、いずれも県の重要文化財に指定されています。

周辺略図

豆知識

梵字…古代インドの言語（サンスクリット、梵語）の表記に使用された文字の総称。密教において、仏や菩薩などを象徴的に表す梵字を種子といいます。

仏舎利…仏教の創始者である釈迦の遺体の一部またはその代わりの品のこと

◆宝篋印塔（倉敷市真備町辻田）

国指定重要文化財

銘文

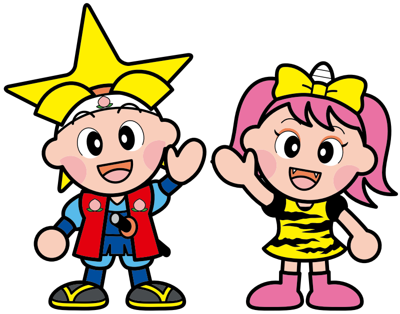
（基礎西面）

正和三年甲寅七月十二日
勧進聖人覚円起立之

塔身東面の月輪
阿閦如来を示す梵字（ウンと読みます）

この宝篋印塔は、かつて堂応寺という寺院があった小高い丘の上に立てられており、塔身の四面には、阿弥陀如来、宝生如来、阿閦如来、不空成就如来を表わす梵字が刻まれています。基礎西面に正和３（1314）年の銘があり、銘文をもつ中世の宝篋印塔としては県内最大(総高326㎝)のものです。

基礎、塔身、笠、相輪の各部が全て制作当初のものであることも貴重です。



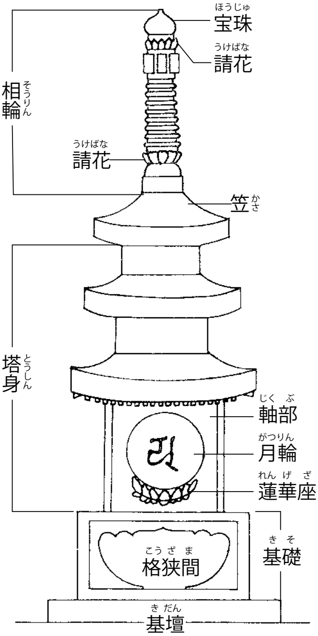
周辺略図

〈層塔〉

◆石造十三重層塔（赤磐市石蓮寺）

県指定重要文化財

層塔とは、多層の塔のことで、層は奇数で、三層から十三層まであります。基礎の上に塔身、頂上に相輪が立てられます。塔身は軸部と笠からなり、初層の軸部に仏や梵字が彫刻されます。木造の三重塔や五重塔を石で作ったものと考えられます。



石蓮寺は報恩大師が創建した備前四十八ヶ寺の一つとされる山上の天台宗寺院で、江戸時代に廃寺となりましたが、石造十三重層塔が残されています。花崗岩製で、高さ654㎝ある長大な層塔です。初層軸部の四面にそれぞれ蓮華座に坐した仏（南：宝生如来　東：阿閦如来　北：不空成就如来　西：阿弥陀如来）が彫刻されています。銘文はありませんが、鎌倉時代中期を下らない時期に作られたと考えられている、県内を代表する層塔です。

周辺略図

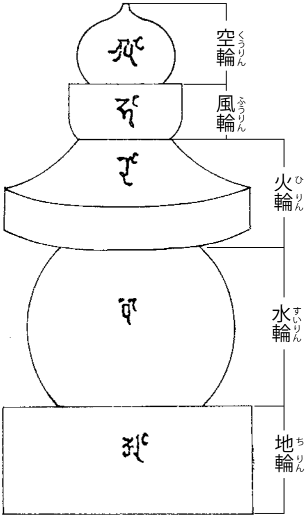
県指定重要文化財

◆石造五輪塔（和気町田土）

仏教において一切の物質を形作る５つの要素を五大（地・水・火・風・空）と言います。五輪塔とは、この五大を表現する方形の地輪、円形の水輪、三角形の火輪、半円形の風輪、宝珠形の空輪を下から順に積み重ねたものです。石塔の構成では、地輪が基礎、水輪が塔身、火輪が笠、風輪が請花、空輪は宝珠にあたります。各輪の四方に五大を表す梵字を刻んだものが多くあります。

銘文

（地輪南面）
融通経衆　白敬
貞治五年 丙午 二月　日



長楽寺はもともと吉井川左岸の杉沢山頂上近くにあった天台宗寺院で、現在は山麓に移っていますが、この五輪塔はかつて境内があった場所に残されています。割石積みの基壇の上に置かれており、総高 155㎝で、各部の残存状態が良好で、形がよく整っています。地輪南面に貞治５（1366）年の銘文があり、室町時代初期に作られた石造五輪塔の標準作と言えるものです。基壇の四隅にも五輪塔があったようで、現在はそのうち２基が残っています。

周辺略図

〈板碑(いたび)〉

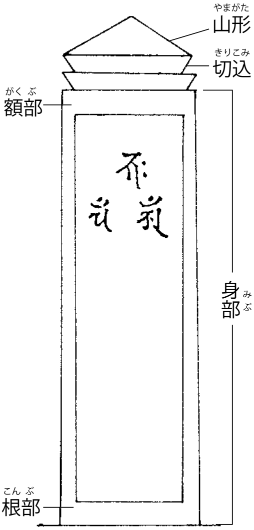
県指定重要文化財

◆石造方柱碑(ほうちゅうひ)（赤磐市中島）

板碑とは、板状に加工しやすい緑泥片岩(りょくでいへんがん)が産出する関東地方や徳島県に多く見られる石塔で、岡山県では他の石塔に比べて数が少なく、石材も花崗岩(かこうがん)が多くを占めます。板状の石の頭部を山形に成形(せいけい)し、その下に二段の切り込みを入れた石塔で、方柱碑(ほうちゅうひ)も板碑の一種です。長方形の身部(みぶ)の上方に梵字(ぼんじ)や仏(ほとけ)、銘文(めいぶん)を彫刻(ちょうこく)しています。身部の上端を額部(がくぶ)、下端を根部(こんぶ)と呼びます。

銘文

為僧覚有
三十三年
暦応



千光寺は、備前四十八ヶ寺（6ページ参照）の一つとされる、赤磐市の山中にある天台宗(てんだいしゅう)寺院です。石造方柱碑は、山門から本堂に向かう途中(とちゅう)の参道脇(さんどうわき)に立てられています。花崗岩(かこうがん)製で、方柱状の身部は、上下二つの石を継ぎ合わせて作られており、総高は205㎝あります。身部の上方には釈迦如来(しゃかにょらい)、文殊菩薩(もんじゅぼさつ)、普賢菩薩(ふげん)を表す梵字が刻まれています。下方に刻まれた銘文から、暦応(りゃくおう)３（1340）年に覚有(かくゆう)という僧(そう)の三十三回忌供養(かいきくよう)のために建てられたことがわかります。

周辺略図

〈笠塔婆〉

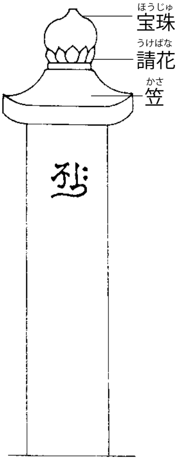
◆大光院の康永四年法華題目石（岡山市中区円山）

県指定重要文化財

笠塔婆とは、長い塔身の上に笠と宝珠をのせた石塔。塔身に仏や梵字、銘文を彫刻しています。室町時代初期に題目を刻んだもの（題目石）が多く作られました。日蓮宗（法華宗ともいいます）信者の多い備前地域を中心に、岡山県南部は題目石が多い地域です。

銘文

（背面）
康永四年　各々
大沙門日妙聖霊一百ヶ日
三月十日敬白



この題目石は、岡山藩主池田家の菩提寺である曹源寺（岡山市中区円山）塔頭の大光院の境内に置かれていますが、もとは妙善寺（岡山市北区西辛川にあった寺院）にあった３基のうちの一つです。残る２基のうち、一つは大光院大覚堂の本尊として祀られており（比丘尼妙善題目石 岡山市指定重要文化財）、もう一つは、西辛川に明治時代になって建てられた大覚堂の本尊として地域で大切にされています（西辛川法華題目石 岡山市指定重要文化財）。花崗岩製で、大覚大僧正自筆と伝えられる題目が塔身の前面及び両側面に刻まれており、背面の銘文から康永４（1345）年に建てられたことがわかります。大覚大僧正は、日蓮宗を備前、備中、備後に広めた僧侶として知られています。

周辺略図

豆知識

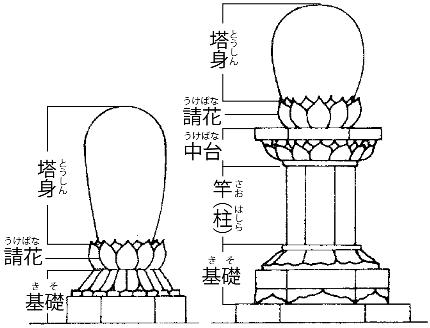
題目石…題目（南無妙法蓮華経）が刻まれた石碑
塔　頭…大きな寺院の敷地内にある寺院

〈無縫塔〉

県指定重要文化財

◆石造無縫塔（津山市加茂町塔中）

無縫塔とは、鎌倉時代に禅宗とともに中国大陸から伝えられた石塔で、基礎の上に卵形の塔身が置かれており、卵のように縫い目のない作りから無縫塔または卵塔とも呼ばれています。基礎と塔身の間に柱状の笠と中台をもつ複雑な形状のものを重制、それがないものを単制といいます。禅宗寺院の僧の墓にしばしば用いられています。



〈単制〉　〈重制〉

この無縫塔は、津山市加茂町塔中にある文殊堂の裏手にあり、隣の宝篋印塔とともに県の重要文化財に指定されています。かつてはこの場所には、天龍寺（京都市）を本山とする末寺があったとされています。総高 123㎝で、八角形の基礎、笠、中台の上に塔身を置く重制の無縫塔です。銘文はありませんが、その様式から室町時代初期に建てられたものと考えられます。宝暦 12（1762）年に天龍寺がこの地を調査して、無縫塔を夢窓国師のもの、宝篋印塔を開山宝山和尚のものと認定したということが脇に建てられた石碑に刻まれています。

豆知識

本山・末寺…宗派の中心寺院を本山、その統制下の一般寺院を末寺とよび、江戸時代に幕府が寺院の統制に利用しました。

夢窓国師…夢窓疎石のこと。後醍醐天皇や足利尊氏が帰依（信じ、その力にすがること）した臨済宗の僧侶。

開山…寺院を開いた僧侶のこと

周辺略図

〈石幢〉

◆臍帯寺石幢（高梁市有漢町上有漢）

国指定重要文化財

石幢とは、「幢」という仏堂の装飾に使われた布に由来する石塔で、中国では唐や宋の時代に盛んに作られました。日本には平安時代に伝わったとされます。基礎の上に一般的には六角または八角の幢身、笠、宝珠がのる構造です。幢身の上方に仏や梵字を彫刻しています。室町時代に地蔵信仰が盛んになるとともに、六地蔵を彫った六面石幢が多く作られました。

高梁市有漢町上有漢の大石集落に保月山高雲寺跡とされる場所があります。江戸時代に臍帯寺に合併されましたが、江戸時代の終わりに焼失してしまいました。この寺院跡地に、鎌倉時代後期の石塔群があります。その一つがこの石幢です。台石の上に六角の幢身を立て、その上に笠を載せたもので、請花・宝珠は当初のものではありません。花崗岩製で、笠の上部までの高さは264㎝あります。幢身の各面の上方に仏や菩薩が彫られ、下方に銘文が刻まれています。不動明王が彫られた第六面の銘文から、嘉元４（1306）年に石工の井野行恒が作ったことがわかります。彼の作品の最初期のものとされ、石幢の中でも最も古い部類の優秀な作品であると高く評価されています。坂を少し下ったところにある石塔婆（板碑）とともに国の重要文化財に指定されています。

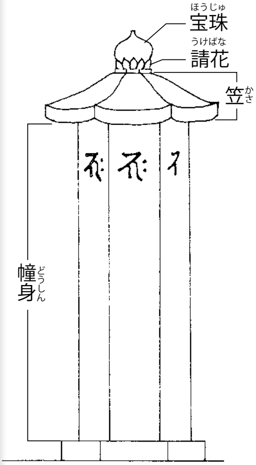
銘文

（第六面）

奉行修行者　願主沙弥西信結儀西阿

嘉元二二年十月廿四日

猶如薄伽梵　大工　井野行恒敬白



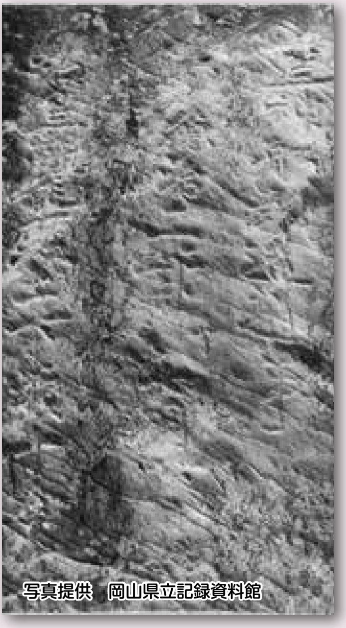
周辺略図

【人物紹介】大和の石工　井野行恒（伊行恒、伊行経）

臍帯寺石幢及び石塔婆、保月の宝塔（高梁市指定重要文化財）の作者である井野行恒は、大和（奈良県）伊派を代表する石工で、大和を中心に、紀伊（和歌山県）や摂津（兵庫県・大阪府）にも作品を残しています。14世紀初めに備中に招かれ、中央の技術を伝えるなど備中地域の石造美術に大きな影響を与えた人物とされます。

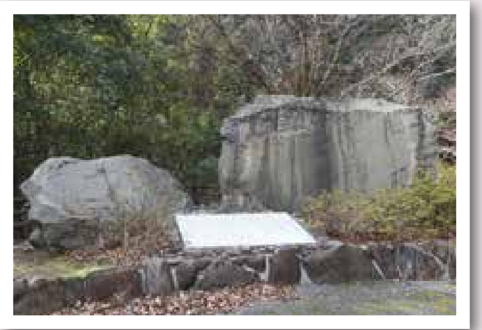
彼の手によると考えられているもう一つの有名な作品が笠神の文字岩（高梁市備中町平川　国指定史跡）です。これは、成羽川の船路開削のための改修工事完成を記念して、徳治２（1307）年、長さ約８ｍ、幅約4.5ｍの大岩に刻まれたものです。現在は新成羽川ダムの底に沈んでいるので、残念ながら普段は見ることはできません。現在は近くに複製品（レプリカ）と説明板が設置されています。

碑文には、成羽川の河川交通における難所であった笠神の竜頭の瀬（流れの速い難所）を中心に、付近の難所を切り開いた工事について、着工から完成までの日付、経過、関係者の名前などが刻まれています。



銘文

笠神船路造通事
徳治二年　七月廿日始之八月一日平之□　基時□□
右笠神竜頭上下瀬十余ケ所者　為日本無双難所之間（後略）



レプリカと説明板

周辺略図

◆石造線刻阿弥陀如来坐像(せんこくあみだにょらいざぞう)（倉敷市真備町尾崎）

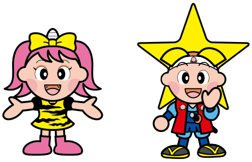
県指定重要文化財

銘文

（右）右志者為□

（左）寛元四年八月廿七日□□

この石仏は、倉敷市真備町の旧山陽道を少し北へ入ったところにあるお堂に祀(まつ)られています。板状の石灰岩の表面に像高 58㎝の阿弥陀如来坐像が線刻されています。両手の印相(いんぞう)から阿弥陀如来と考えられています。周囲には二重の輪光(りんこう)、像の下部には如来が乗る蓮華座(れんげざ)も表現されています。左側面の銘文(めいぶん)から寛元(かんげん)４（1246）年に作られたことがわかりますが、これは県内の銘文をもつ石仏の中で最も古い年号です。



豆知識

如来…完全な人格者(じんかくしゃ)を意味し、悟(さと)りを開いて仏となった者
釈迦如来、大日如来、阿弥陀如来など

線刻…線の切れ込みを入れて図柄(ずがら)を描く手法

印相…仏(ほとけ)や菩薩(ぼさつ)それぞれがもつ力や願いを手や指の形で示したもの

周辺略図

県指定重要文化財

◆石造薬師三尊像（新見市神郷高瀬）

銘文

（右）東福寺 沙弥清仏 大和是永

（左）嘉元三年正月日 白敬

写真提供　新見市教育委員会

古くから高瀬の薬師さんとして広く信仰を集めている石仏です。もとは広島県神石高原町の東福寺にあったとされるものですが、東福寺の住職が不在になった際に譲り受けて現在の場所にお堂を建てて祀られたと伝えられています。花崗岩に薬師如来、日光菩薩、月光菩薩が浮き彫りされていて、中尊の薬師如来坐像は像高約 95㎝、脇侍の日光菩薩、月光菩薩は像高約 43㎝あります。銘文から嘉元４（1306）年に大和是永という石工が作ったと考えられます。精緻で洗練された彫刻技術で作られており、大和国の石工にふさわしい作品です。

周辺略図

豆知識

脇侍…仏像や仏画において中尊（中央に位置する仏など）の左右に控える菩薩や明王、天のこと。

◆石造五智如来坐像（美咲町両山寺）

県指定重要文化財

両山寺は、美咲町にある真言宗寺院で、かつては真言宗・天台宗の道場が山中におかれていました。両山寺で毎年８月に行われる護法祭は、ゴーサマの名で親しまれ、県の重要無形民俗文化財に指定され、正平 18（1363）年の銘文をもつ鰐口は県の重要文化財に指定されています。

両山寺本堂南側の緩やかな尾根上に、石造五智如来坐像はあります。中心に大日如来、その周囲に阿閦如来、宝生如来、阿弥陀如来、不空成就如来が配置されています。かつては室町時代末期の火災で焼失した五重塔に安置されていたものと伝えられています。いずれも花崗岩を丸彫りした石仏で、大日如来がやや大きく像高は約 55㎝あり、その他の像高は 50㎝弱です。銘文はありませんが、その様式から室町時代後半に作られたと考えられています。

周辺略図

豆知識

鰐口…仏教などで用いる金属製の楽器
丸彫り…一つの材料から像の全体を彫り出すこと

〈菩薩〉

◆石造延命地蔵（新見市正田）

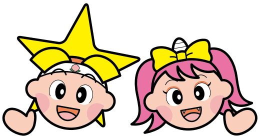
県指定重要文化財

銘文

（右）正平十二年　三月三日
（左）光阿弥

新見市の正田橋北詰近くのお堂に地蔵菩薩立像が祀られています。これが「朝間地蔵」という名前で、地域で古くから信仰されている延命地蔵です。和泉砂岩製で、台座から光背まで含めた全高は135㎝、像高は91㎝で、銘文から正平12（1357）年に作られたことがわかります。新見市内には同じ正平12年の銘文を持ち、同じ様式で作られた昼間地蔵（新見市正田）、夕間地蔵（新見市西方）と呼ばれている延命地蔵もあり、一連の作品と考えられています。

周辺略図



豆知識

菩薩…悟りを開くことを求めて、修行に励む者
　　　弥勒菩薩、観音菩薩、地蔵菩薩など

延命地蔵…地蔵菩薩がもたらす延命のご利益を強調した名称

和泉砂岩…四国北部から大阪・和歌山にかけての地域に産出する砂岩

◆磨崖仏（総社市下原）

県指定重要文化財

銘文
（第三尊と第四尊の間）
北斗代
応永五戊寅八月日　大願主道清
高宮

高梁川の支流新本川の堤防近くの花崗岩の岩塊に彫刻された石仏です。この岩塊は背後の岩壁と一帯のものであったものが、採石のために周囲が切り取られた結果、残されたものと考えられます。岩の平面を研磨し、細い線で３区画に区切り、区画ごとに２体ずつ、計６体の地蔵菩薩立像が彫刻されており、いわゆる六地蔵として作られたものです。いずれも右手に錫杖、左手に宝珠を持つ一般的な地蔵菩薩の姿を表しています。像の下には蓮華座も彫られています。浮き彫りされた地蔵菩薩立像は、いずれも像高約 43㎝で、像の間に刻まれた銘文から応永５（1398）年に作られたことがわかります。六地蔵の左のやや離れた場所には、同じ大きさの不動明王坐像が彫刻されていますが、技法の違いから、少し遅れて作られたものと考えられています。

周辺略図

豆知識

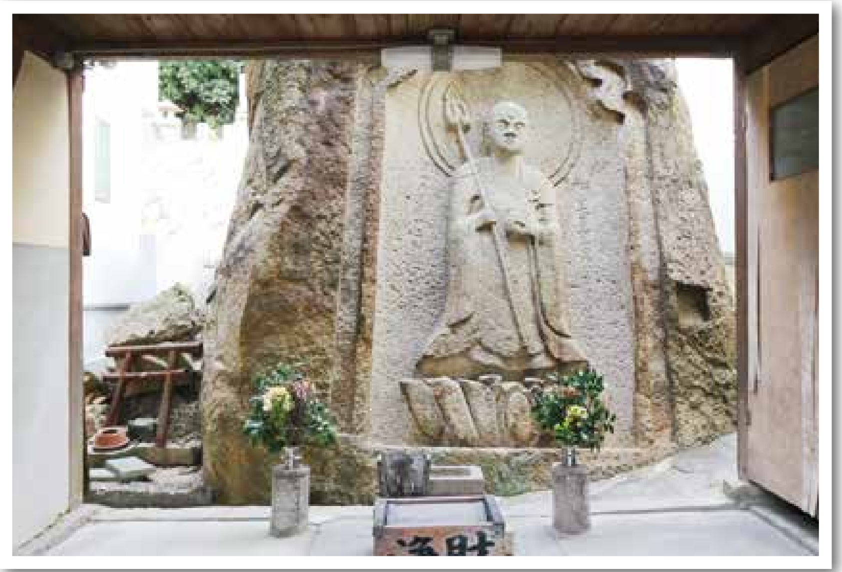
六地蔵…六道（人間が死後におもむく六つの世界）において、人々の苦しみを救うとされ、広く信仰された６体の地蔵菩薩のこと。

県指定重要文化財

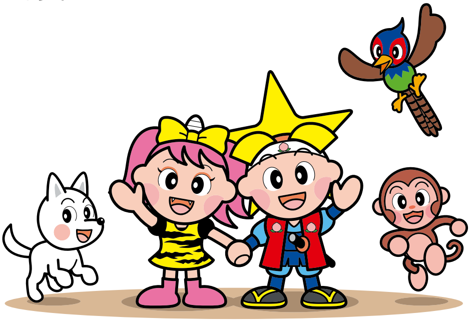
◆松山長昌寺地蔵石仏（岡山市北区大安寺西町）

銘文

（右）松山長昌寺応永十年四月廿四日始
（左）同十九年首夏十三幹縁長昌上人記



岡山市北区万成から矢坂にかけての山塊（矢坂山）から産出する美しい淡紅色の花崗岩は万成石とよばれ、需要の高い石材として知られています。この山塊の南側、ＪＲ大安寺駅北西の集落に、地上部分の高さ約５メートル、幅約３メートルの万成石に彫刻された像高 166㎝の地蔵菩薩立像があります。右手に錫杖、左手に宝珠を持ついわゆる延命地蔵です。銘文に刻まれた松山長昌寺について詳しいことはわかっていませんが、刻まれた銘文によると、応永 10（1403）年から応永 19（1412）年にかけて造られたようです。



周辺略図

その他の石造物

〈石鳥居〉

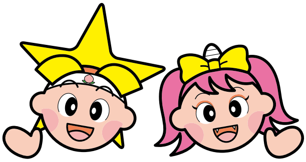
国指定重要文化財

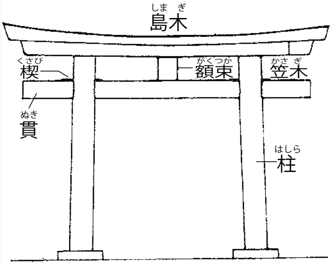
◆八幡神社鳥居（岡山市北区下足守）

神社の参道などに建てられている門である鳥居は、初めは木製で平安時代後期から石製のものが立てられるようになったと考えられています。鳥居の様式は、神明鳥居と明神鳥居に大きく分けられ、明神鳥居が一般的です。明神鳥居に稚児柱と呼ばれる支えをもつものを両部鳥居といいます。

銘文

（右の柱）康安元年辛丑十月二日願主神主賀陽重人
大工沙弥妙阿
祝師僧頼澄





葦守八幡宮は、足守藩の総鎮守であった神社で、昭和 53（1978）年までは八幡神社と称していました。神社の参道がかつての大山道に接する場所に石鳥居があります。花崗岩製で、明神鳥居に柱の前後を支える稚児柱を取り付けた両部鳥居と呼ばれる形式ですが、稚児柱は後に取り付けられたもので、本来は明神鳥居でした。高さ約４ｍで、柱はやや内側に傾斜しています。康安元（1361）年に作られたという銘文が刻まれており、いわゆる「南北朝時代」に作られた石鳥居でほぼ完全な形で残っているものは全国的に見ても珍しく、貴重なものです。銘文によると作者は沙弥妙阿という石工で、鼓神社宝塔（1ページ参照）を作ったのと同じ人物です。

周辺略図

国指定重要文化財

◆本荘八幡宮鳥居（倉敷市児島通生）

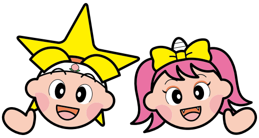
ほんじょうはちまんぐう

銘文

（右の柱）願主塩生村住人松井紀義泰辰生年三十二

（左の柱）応永廿八年辛丑十一月吉日

本荘八幡宮は児島半島西南部８ヶ村の総鎮守であった神社で、水島灘を見下ろす場所にあります。現在、石鳥居は神社本殿の背後にありますが、かつては参道に立てられていたようです。花崗岩製で、高さ2.2ｍの小型の明神鳥居です。銘文から応永28（1421）年に作られたことがわかり、島木・笠木が真反りになっており、その端を垂直に切っているところなど、室町時代初期の様式を典型的に示し、この時代の石鳥居の基準となる作例として高く評価されています。



豆知識

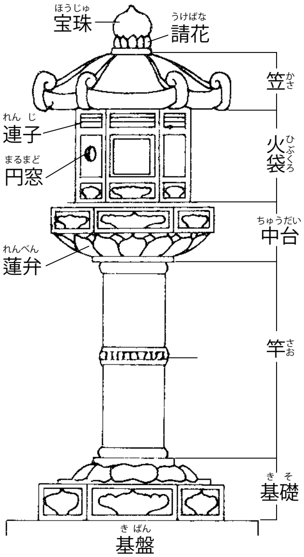
真反り…端にいくにしたがって次第に反り上がること

周辺略図

〈石灯籠〉

県指定重要文化財

◆総社石灯籠（吉備中央町加茂市場）



吉備中央町にある総社宮は、中世の祭礼に由来するとされる加茂大祭（県指定重要無形民俗文化財）が行われることで知られる神社です。境内にスギやヒノキ、イチョウの巨木が立ち並ぶ様は圧巻です。本殿の正面右側脇には石造地蔵菩薩立像（県指定重要文化財）が置かれ、左側脇に石灯籠が立っています。

安山岩製で、基礎、中台、火袋、笠は八角形で、各部ともほぼ無傷の状態で残っています。

火袋の八面のうち、二面は火口となっており上部に大日如来を示す梵字が刻まれています。残り六面には地蔵菩薩が浮き彫りされていて、六地蔵となっています。笠部正面の銘文は現在では判読不能で、弘安４（1281）年と読めるという説もありますが、はっきりしません。その特徴から鎌倉時代中期から後期にかけて作られたものと考えられます。

周辺略図

〈石室〉

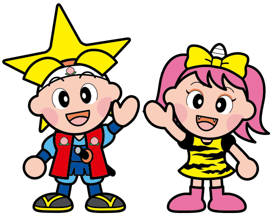
◆守福寺宝殿（岡山市北区下足守）

国指定重要文化財

銘文

（右の柱）暦応元年戊寅十一月二十二日

内部に石仏や石塔を安置するために石で作られた石造物を石室や石殿といいます。岡山市北区下足守にある守福寺宝殿は、王子権現を祀る王子堂として、室町時代初期に前身の建物から建て替えられたものと考えられています。花崗岩製で、高さは約 2 m、奥行き約 1.4 mあります。長方形の板石で三方を囲み、正面には木製の両開きの板戸が取り付けられています。正面に付けられた庇を支える向拝柱との間に板石を渡して、高床にしてあります。暦応元（1338）年の銘文が刻まれており、室町時代初期の貴重な石室として、国の重要文化財に指定されています。



周辺略図

所在マップ

1 五流尊瀧院宝塔	倉敷市林
2 沢津丸の宝塔	笠岡市真鍋島
3 本山寺宝篋印塔	美咲町定宗
4 宝篋印塔	倉敷市真備町辻田
5 石造十三重層塔	赤磐市石蓮寺
6 石造五輪塔	和気町田土
7 石造方柱碑	赤磐市中島
8 大光院の康永四年法華題目石	岡山市中区円山
9 石造無縫塔	津山市加茂町塔中
10 臍帯寺石幢	高梁市有漢町上有漢
11 笠神の文字岩	高梁市備中町平川
12 石造線刻阿弥陀如来坐像	倉敷市真備町尾崎
13 石造薬師三尊像	新見市神郷高瀬
14 石造五智如来坐像	美咲町両山寺
15 石造延命地蔵	新見市正田
16 磨崖仏	総社市下原
17 松山長昌寺地蔵石仏	岡山市北区大安寺西町
18 八幡神社鳥居	岡山市北区下足守
19 本荘八幡宮鳥居	倉敷市児島通生
20 総社石灯籠	吉備中央町加茂市場
21 守福寺宝殿	岡山市北区下足守

■発行日　平成 28 年 3 月 29 日
■発　行　岡山県教育委員会
■編　集　岡山県教育庁文化財課
〒 700-8570　岡山市北区内山下 2 － 4 － 6　電話 086-226-7601（直通）
■協　力　岡山県立記録資料館、新見市教育委員会、岡山県立博物館、岡山県古代吉備文化財センター、岡山県立岡山城東高等学校、岡山市立芳泉中学校、岡山市立三門小学校

表紙写真　上：石造薬師三尊像（写真提供　新見市教育委員会）　左中：臍帯寺石幢
中下：守福寺宝殿　右下：本山寺宝篋印塔